

令和8年度 昭島市立清泉中学校
 数学 年間指導計画・評価規準〔第1学年〕

学期	月	時数	単元名と内容	単元のねらい	観点別評価規準(主たるもの)		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1 学期	4	5	[整数の性質] 0章 算数から数学へ 1節 整数の性質	素因数分解の一意性を理解し、自然数を素因数分解することができる。	・自然数、素数、素因数分解の意味を理解している。 ・素因数分解の一意性を理解し、自然数を素因数分解することができる。	・自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだし表現することができる。	・自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだそうとしている。
		4	[正負の数] 1章 数の世界をひろげよう 1節 正負の数	数の意味を理解するとともに、数の概念を広げ、大小判断ができるようにする。	・正負の数の必要性和意味を具体的な場面で結び付けて理解している。	数の大小関係を判別することができる。	正負の数の大小関係を考えようとしている。
	5	8	2節 加法と減法	正負の数の加法・減法・加減の混じった計算ができるようにする。	正負の数の加法・減法・加減の混じった計算ができる。	正負の数の加法・減法・加減の意味を理解し、計算ができる。	正負の数の加法と減法の計算方法を考えようとしている。
		11	3節 乗法と除法	正負の数の乗法・除法・加減乗除の混じった計算ができるようにする。 数の範囲と計算の可能性の関係について知る。	・正負の数の四則計算をすることができる。	正負の数の乗法・除法・四則混合計算ができる。 数の範囲の中でいつでもできる計算をいうことができる。	正負の数の乗法と除法の計算方法を考えようとしている。
	6	3	4節 正負の数の利用	身の回りの問題を、正負の数を利用して解決することができる。	・具体的な場面で正負の数を用いて表したり処理したりすることができる。	・正負の数を活用して様々な事象における変化や状況を考察し表現することができる。	正負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
		8	[文字と式] 2章 数字のことばを身に付けよう 1節 文字を使った式	文字式の意味・きまりを知り、表記できるようにする。	文字式の決まりを理解し、きまりにしたがった式で表すことができる。	具体的な数量を表した文字が、どんな数量の代わりとして使われているかを考察することができる。	文字を用いることの必要性和意味を考えようとしている。
	7	6	2節 文字式の計算	1次式の四則計算ができる。	1次式のいろいろな計算ができる。	具体的な場面と関連付けて、1次式の計算の方法を考察し表現することができる。	1次式の計算方法を考えようとしている。
		4	3節 文字式の利用	等式、不等式の意味を理解し、数量の間の関係を等式や不等式で表したり、等式や不等式が表す数量の関係を読み取ったりすることができる。	数量の関係や法則などを、文字を用いた式を用いて表したり、読み取ったりすることができる。	文字を用いた式を活用して、具体的な事象を考察し表現することができる。	文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	9	7	[方程式] 3章 未知の数の求め方を考えよう 1節 方程式とその解き方	数量の関係を等式で表すことができ、方程式を解くことができるようにする。	方程式の必要性和意味を理解し、等式や移項の性質を用いて方程式を解くことができる。	等式の性質を、方程式の解き方と結び付けて考えることができる。	方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
		7	2節 1次方程式の利用	数量の関係を等式で表すことができ、方程式を解くことができるようにする。	与えられた条件から、一次方程式を立式でき、解くことができる。 数量の間の関係を不等式で表すことができる。 比例式の性質を利用して方程式をつくり、その解を求めることができる。	方程式の解法の手順や立式に、見通しをもつことができる。 不等式が表す具体的な場面をとらえ、数量の間の関係を読み取ることができる。 比が与えられた身近な問題を、いろいろな考え方で解くことができる。	等式の性質を使って、進んで方程式を解き、形式的な処理に慣れようとしている。 身のまわりの大小関係に関心をもち、不等式で表そうとしている。 簡単な整数の比になおす方法を考えようとしている。
2 学期	10	6	[比例と反比例] 4章 数量の関係を調べて問題を解決しよう 1節 関数と比例・反比例	身の回りの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。	関数の意味を理解している。	身の回りの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。	関数の考えを生活や学習に生かそうとしている。
		7	2節 比例の性質と調べ方	比例の特徴を表やグラフ、式を通して理解する。	比例の意味を理解し、比例の関係を式に表すことができる。	表や式、グラフを用いて、比例の関係を考察し、特徴を明らかにできる。	関数の意味や比例について考えようとしている。
	11	6	3節 反比例の性質と調べ方	反比例の特徴を、表やグラフ、式を通して理解する。	反比例の意味を理解し、反比例の関係を式に表すことができる。	表や式、グラフを用いて、反比例の関係を考察し、特徴を明らかにできる。	関数の意味や反比例の意味について考えようとしている。
		4	4節 比例と反比例の利用	比例や反比例の見方や考え方、グラフを利用して、具体的な場面の問題を解くことができる。	比例のグラフから、具体的な事象を読み取ることができる。	比例や反比例の見方や考え方を活用して能率的に調べることができる。	比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
	12	6	[平面図形] 5章 平面図形の見方をひろげよう 1節 図形の移動	移動の意味とその性質を理解する。	ある図形を移動させた図形をかくことができる。図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。	2つの合同な図形の関係を移動の見方で捉え、説明することができる。	図形の移動について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
		8	2節 基本の作図	様々な図形の意味を理解し、作図できるようにする。	作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、基本的な作図ができる。	作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、基本的な作図ができる。	基本的な作図の方法を、線対称な図形の性質をもとにして考えようとしている。
	1	3	3節 おうぎ形	おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。	おうぎ形の弧の長さや面積が中心角に比例することをもとして、おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。	おうぎ形の弧の長さや面積の求め方を考察し表現することができる。	おうぎ形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
		3	[空間図形] 6章 立体の見方をひろげよう 1節 いろいろな立体	多面体の意味を理解する。角錐や円錐の意味とそれらの特徴を理解する。	多面体の意味を理解している。角や円錐の意味とそれらの特徴を理解している。	角柱と角錐、円柱と円錐の共通点や違いを見いだし、説明することができる。	空間図形の性質や関係を捉えることの必要性和意味を考えようとしている。
	1	11	2節 立体の見方と調べ方	空間内の直線や平面の位置関係について理解し、それらについて調べたり、表したりすることができる。	空間における直線や平面の位置関係を理解している。立体図形の展開図や投影図について理解している。	空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えることができる。空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだすことができる。	空間図形の性質や関係を捉えることの必要性和意味を考えようとしている。
		5	3節 立体の体積と表面積	立体の概念を深め、表面積・体積を求めることができるようにする。	柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。	立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現することができる。	空間図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。

3 学 期	2	6	[データの分析と活用] 7章 データを活用して判断しよう 1節 データの整理と分析	資料を度数分布表に整理したり、それをヒストグラムや度数折れ線に表したりすることができる。	ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解している。累積度数、累積相対度数の必要性和意味を理解して言える。	範囲や代表値を用いて、資料の特徴や違いを説明することができる。	ヒストグラムや相対度数の必要性和意味を考えようとしている。学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
		2	2節 データの活用	目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。	コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。	目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。	ヒストグラムや相対度数を活用した問題解決の過程を振り返って検討したり、多面的に捉え考えようとしていたりしている。
		4	3節 ことがらの起こりやすさ	あることがらの現れる相対度数を調べること、そのことがらの起こりやすさの程度を知ることができることを理解する。	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。	多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
		6	まとめ	学習内容の定着を図るための補充的学習。			
	合計	140		評価方法	定期テスト、単元テスト(中テスト)、小テスト	定期テスト、単元テスト(中テスト)、小テスト	単元振り返りシート、課題の取り組み、レポート等